

分野	目標	策定時の現状値又は参考値	ベースライン調査等	目標値	暫定直近実績値	調査年
6	6.8 歯間部清掃器具の使用の増加	40歳(35~44歳) 19.3%	H5年保健福祉動向調査	50%以上	調査中	
		50歳(45~54歳) 17.8%		50%以上	調査中	
	6.9 喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識の普及 4.1 たばこ参照					
	6.10 禁煙支援プログラムの普及 4.4 たばこ参照					
歯の健康	歯の喪失防止					
	6.11 80歳で20歯以上、60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の増加	80歳(75~84歳)20歯以上 11.5%	H5年歯科疾患実態調査	20%以上	調査中	
		60歳(55~64歳)24歯以上 44.1%		50%以上	調査中	
	6.12 定期的な歯石除去や歯面清掃を受ける人の増加	(参考値)60歳(55~64歳) 15.9%	H4年寝屋川市調査	30%以上	調査中	
6.13 定期的な歯科検診の受診者の増加	60歳(55~64歳) 16.4%	H5年保健福祉動向調査	30%以上	調査中		
7 糖尿病	7.1 成人の肥満者の減少	1.1 栄養・食生活参照				
	7.2 日常生活における歩数の増加	2.2 身体活動・運動参照				
	7.3 質・量ともにバランスのとれた食事	1.8 栄養・食生活参照				
	7.4 糖尿病検診の受診の促進	(参考値)健康診断受診者 4,573万人	H9年健康・福祉関連サービス需要実態調査	6,860万人以上	5,875万人*	H13年国民生活基礎調査
	7.5 糖尿病検診受診後の事後指導の推進	糖尿病検診における異常所見者の事後指導受診率				H14年度糖尿病実態調査
		男性 66.7%	H9年糖尿病実態調査		100%	
	女性 74.6%			100%	75.0%	
	7.6 糖尿病有病者の減少(推計)	糖尿病有病者 690万人			1,000万人	
	7.7 糖尿病有病者の治療の継続	治療継続率 45%			100%	50.6%
	7.8 糖尿病合併症の減少					
7.8a 糖尿病性腎症	糖尿病性腎症によって新規に透析導入となった患者数 10,729人	1998日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況」	—	12,630人	H14年「わが国の慢性透析療法の現況」	
7.8b 失明	糖尿病性網膜症による視覚障害 約3,000人(1年間)	1988厚生省「視覚障害の疾病調査研究」	—	調査中		

分野	目標	策定時の現状値又は参考値	ベースライン調査等	目標値	暫定直近実績値	調査年	
8 循環器病	8.1 食塩摂取量の減少	1. 3 栄養・食生活参照					
	8.2 カリウム摂取量の増加	成人 2.5g/日	H9年国民栄養調査	3.5g以上	2.5g/日	H14年 国民栄養調査	
	8.3 成人の肥満者の減少	1. 1 栄養・食生活参照					
	8.4 運動習慣者の増加	2. 3 身体活動・運動参照					
	8.5 高血圧の改善（推計値）	(参考値)平均最大血圧 男性 132.7mmHg 女性 126.2mmHg	H10年国民栄養調査	†	男性132.6mmHg 女性125.6mmHg	H14年 国民栄養調査	
	8.6 たばこ対策の充実	4. たばこ参照					
	8.7 高脂血症の減少	高脂血症の人の割合		H9年国民栄養調査	5.2%以下	11.5%	H14年 国民栄養調査
		男性	10.5%				
		女性	17.4%				
	8.8 糖尿病有病者の減少	7. 6 糖尿病参照					
	8.9 飲酒対策の充実	5. アルコール参照					
	8.10 健康診断を受ける人の増加	検診受診者 4,573万人	H9年健康・福祉関連サービス需 要実態調査	6,860万人以上	5,875万人*	H13年 国民生活基礎調査	
	8.11	生活習慣の改善等による循環器病の減少(推計値)					
		脳卒中死亡率(人口10万対)	110	H10年 人口動態統計	†	103.4	H14年 人口動態統計
男性 106.9			†		男性 101.0		
女性 113.1			†		女性 105.6		
脳卒中死亡数		13万7,819人	†		13万257人		
		男性 6万5,529人	†		男性 6万2,229人		
		女性 7万2,290人	†		女性 6万8,028人		
虚血性心疾患死亡率(人口10万対)		57.2	†		56.7		
		男性 62.9	†		男性 63.6		
		女性 51.8	†		女性 50.3		
虚血性心疾患死亡数		7万1678人	†		7万1537人		
		男性 3万8566人	†		男性 3万9138人		
	女性 3万3112人	†	女性 3万2399人				

分野	目標	策定時の現状値又は参考値	ベースライン調査等	目標値	暫定直近実績値	調査年	
がん	9.1 たばこ対策の充実	4. たばこ参照					
	9.2 食塩摂取量の減少	1. 3 栄養・食生活参照					
	9.3 野菜の摂取量の増加	1. 4 栄養・食生活参照					
	9.4 1日の食事において、果物類を摂取している者の増加	摂取している人の割合 成人 29.3%	H9年国民栄養調査	60%以上	調査中		
	9.5 脂肪エネルギー比率の減少	1. 2 栄養・食生活参照					
	9.6 飲酒対策の充実	5. アルコール参照					
	9.7 がん検診の受診者の増加						
		胃がん	(参考値)1,401万人	参考値・H9年健康・福祉関連 サービス需要実態調査	2,100万人以上	1,973万人*	H13年 国民生活 基礎調査
		子宮がん	(参考値)1,241万人		1,860万人以上	1,024万人*	
		乳がん	(参考値)1,064万人		1,600万人以上	766万人*	
	肺がん	(参考値)1,023万人	1,540万人以上		1,231万人*		
	大腸がん	(参考値)1,231万人	1,850万人以上		1,425万人*		

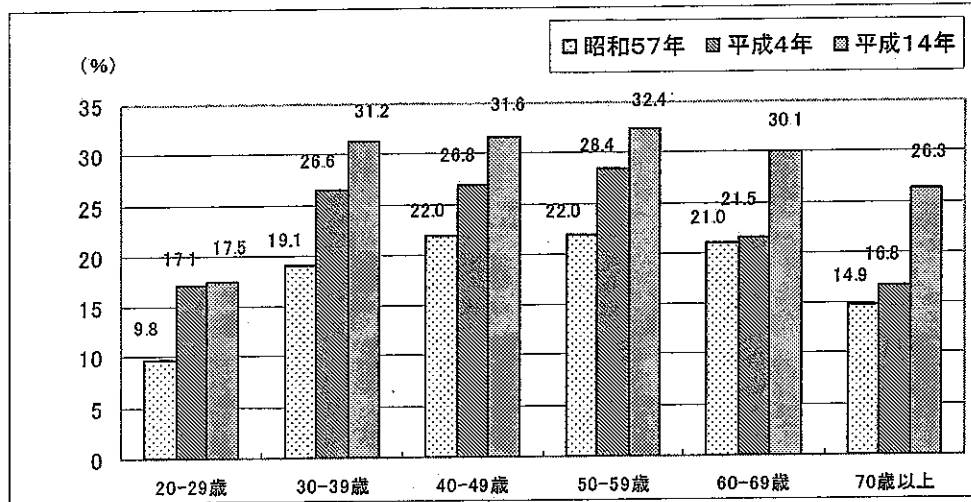
注)

- \* の暫定直近実績値は、調査方法としてベースライン調査と暫定直近実績値を把握した調査が異なっている数値。
- \*\* の暫定直近実績値は、食品成分表の改訂にともなった重量変化率の換算が必要な数値。
- † は、目標値としての設定はなされておらず、他の目標項目の達成度に応じた推計値が記載されている項目。

(参考)

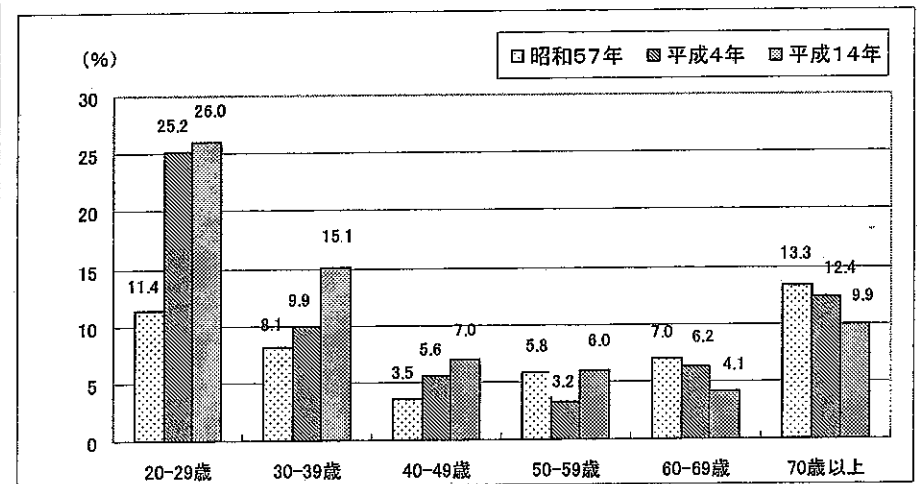
肥満の状況(男性) (BMI25以上)

男性の30~60歳代で約3割が肥満。  
いずれの年齢層においても20年前、10年前と比較して増加傾向。



やせ(低体重)の状況(女性) (BMI18.5未満)

女性の20歳代の4人に1人がやせ(低体重)。  
若い女性で、20年前と比較してやせ(低体重)の者が増加。



(国民栄養調査)

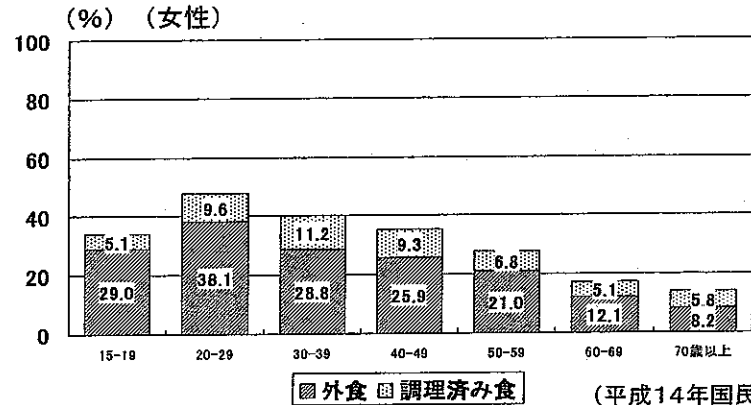
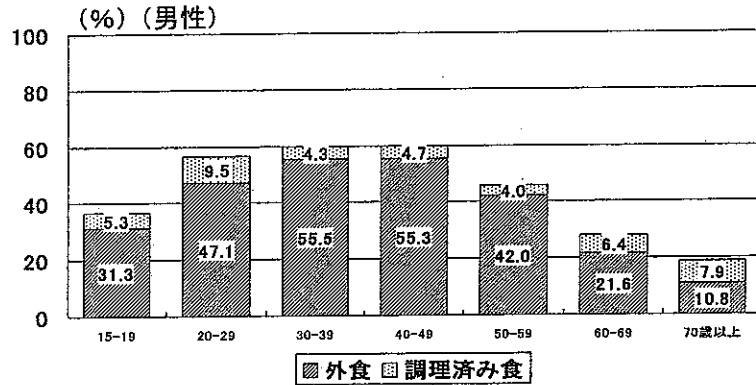
肥満度の判定: BMI(Body Mass Index)を用いて判定

BMIは「体重kg/(身長m)<sup>2</sup>」により算定

やせ(低体重): BMI < 18.5    正常: 18.5 ≤ BMI < 25    肥満: BMI ≥ 25

## 昼食における外食の利用状況

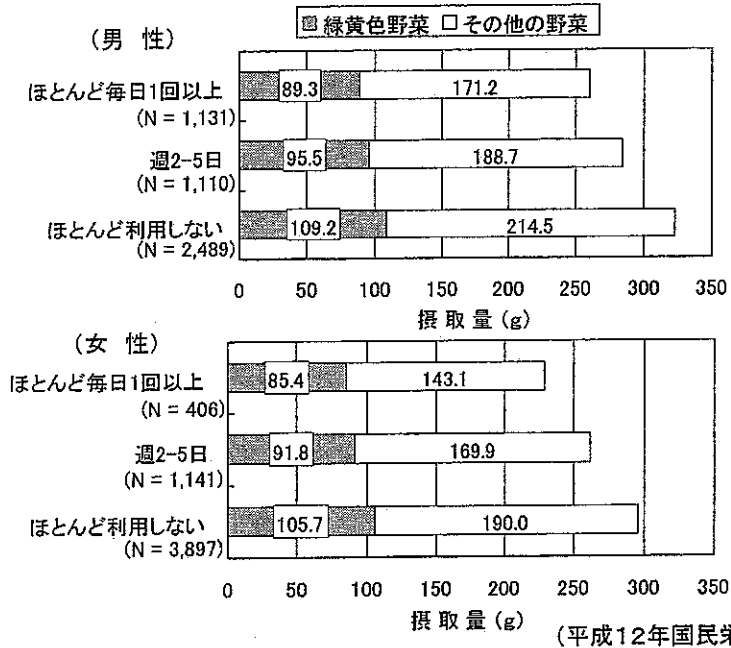
昼食での外食の利用は、20～40歳代男性で最も多く5割以上



(平成14年国民栄養調査)

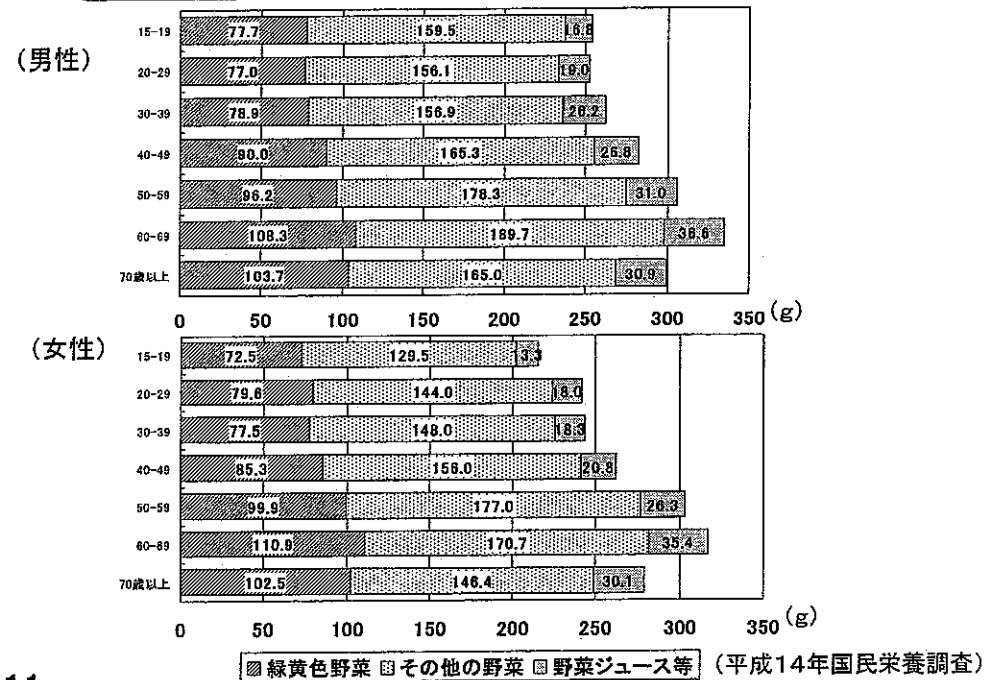
## 外食の利用頻度別にみた野菜摂取量

外食の利用頻度が多い者ほど野菜摂取量が少ない



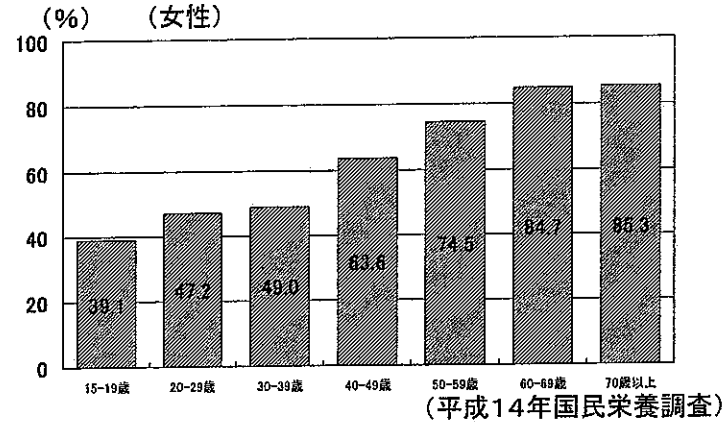
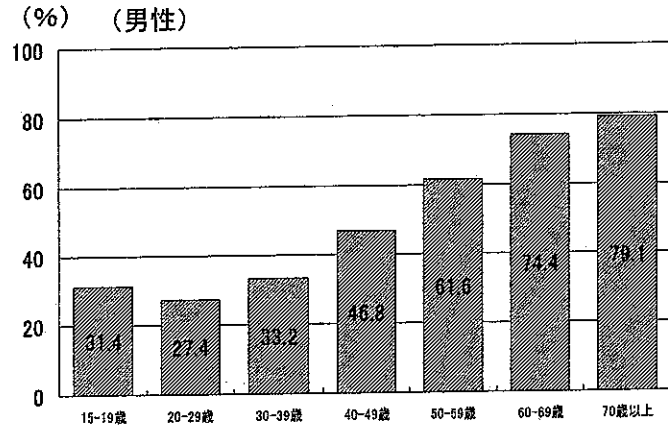
## 野菜摂取量の状況

若い世代ほど野菜摂取量が少ない



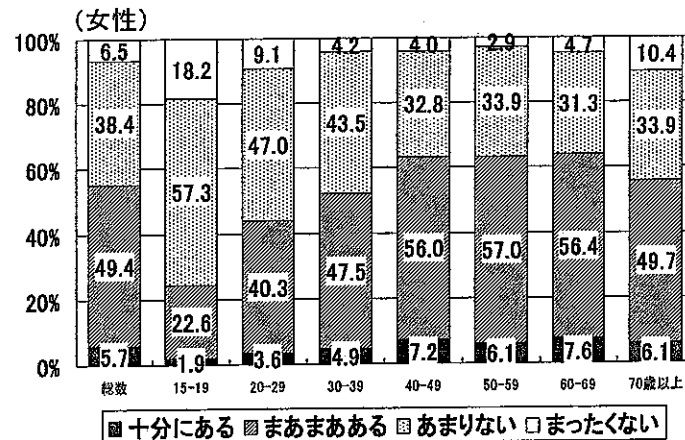
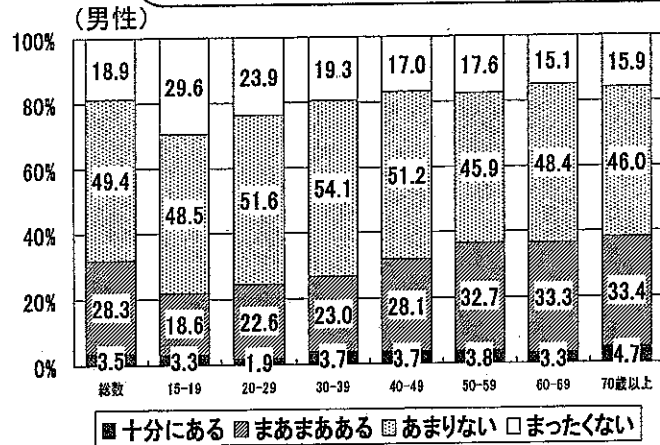
## 油の多いものを控えている者の割合

若い世代では、油の多いものを控えている者が少ない



## 適切な食事摂取のために必要な知識・技術の有無

適切な食品選択や食事準備のために必要な知識・技術を持つ者は、  
男性で約3割、女性で約5割  
「まったくない」とする者は、15~19歳男性で約3割、20歳代男性で2割強  
15~19歳女性で約2割、20歳代女性で約1割



(平成11年国民栄養調査)